

目指す学校像（ミッション）	国際社会に貢献する、心豊かな、創造力・発信力をもったリーダーを育成する学校
本年度の重点目標	・重点目標「学力向上」 ・重点課題「伸」；教育活動の「質」を高める 学力① 人間性(こころ)：その中核(思いやり) 高度の知的な脳力 創造的思考力 学力② 狭義の学力：世界を説明する知 基礎学力(知識・理解・技能) 学力③ 広義の学力：創造力 発信力 好奇心 コミュニケーション力

学 校 自 己 評 価							学校関係者評価（H27年5月12日） （保護者代表3名・学校代表3名）
評価項目	年度当初		中間評価（10月）	最終評価（3月）			意見・要望・評価等
	現状	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題	
1 よりよい授業を目指す授業改善の取り組み 授業改善	○児童生徒が主体的に学ぶことのできる探究型授業の実践を心がけているが、教師によって取り組みに差が見られる。 ○体験型の授業からの転換を進めているが、いまだ「体験する」に終わってしまうなど、「問い」を生み出す途上にある。	○自ら疑問を持ち、解決するための「徹底して思考する」場を意識的に作る。 ○一人ひとりの学習実施表を作成し、子どもの学習意欲を授業だけでなく、家庭学習もサポートする。 ○教員間の授業研究や研究協議会を実施し、探究型の学びの実践を深める。	○探究型授業実践への共通理解及び教員意識は図れているが、まだ実践しきれていない教員が見られる。 ○教員間による教科ごとの授業研究協議会では、各領域において互いの実践を持ち寄り具体的に協議し合うことで探究的学びの実践を深め合うことができた。	○各教科の授業に「学び合い」を積極的に取り入れ、更に探究的な授業実践への取り組みが随所で試みられた。 ○家庭学習を軸に子どもの課題を見つけ、教師との対話に結びつける実践を増やした。また「個」を伸ばす視点から授業の場づくりにつながることができた。	【P】 C 【S】 C	○探究型の学びを更に推進し、総合的に考える力を育成する。 ○探究的な学びを実践するために児童生徒の好奇心や意欲を高める仕掛け作りに努める。 ○管理職による授業参観を計画的に実施し、その評価を授業者にフィードバックできるよう効果的な授業改善に努める。	○探究・思考を重視した授業内容に多くの評価を得て、満足度が高まり、個々の教員の努力・工夫で、子どもたちの意識も向上している。 ○教員個人の経験や能力にバラつきがあり、クラスごとの授業の進め方にも差があり、学年末にしわ寄せが生じているので、教師間・学校間での連携がもっと必要だと感じる。 ○学園内での異動も増え、それが将来プラスに働くであろうという期待もあるが、信頼する先生がいなくなることの不安もある。
2 異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 Teamの充実	○異学年活動は一定の成果を発揮している。 ○行事や Team 活動を通じて、協力し互いに思いやる心を育む場となっている。 ○自分たちで掲げた3本の柱を授業づくりに結びつける努力をしている。	○プライマリーでは、朝の会、Team 道徳、Team 体育、表現等を通して、自分を高め、大切に思う気持ちを育む。 ○セカンダリーでは、委員会、行事、家庭学習を通して、子どもたちが主体的に取り組む力を伸ばす。	○異学年分け隔てなく仲良く活動する中で丁寧なことばを意識する場面に欠ける。 ○上級生が自主的に活動を進める反面、5・6年生のセカンダリーでの位置づけや、Team 内での具体的な役割が不明確なところがある。	○Team ごとにテーマを決め、異学年活動を行うことで互いを認め合う気持ちが芽生えている。 ○委員会や行事を通じて7・8年生が中心となって自主的に運営することでTeamが活性化した。	【P】 A 【S】 A	○何事にも丁寧に取り組む姿勢を身に付けさせたい。 ○異学年それぞれの役割に気づき、自主的にTeamの仲間を思いやり、自らの務めを自覚して実行できる力を付ける。	○異学年活動はとてもよく機能しており、毎年ステップアップしている。現状維持で満足することなく、更に上のステージに進めることが期待されている（PS間、一貫部との交流など）。 ○学習や生活面でもプラスにはたらいっており、いつも気にかけている・気にかけてもらえる「個性を生かす」Teamの活動へとさらに発展してほしい。 ○ターシャリーの実現をお願いしたい。
3 子どもたちが主体的に生活する学校生活の実現 生き方の確立	○3・4年生が中心となってプライマリーの生活を支えている。 ○授業に向かう姿勢、規律が不十分である。	○委員会から様々な取り組みの発信をさせる。 ○学校生活の3つの柱を子ども主体で実行していく。	○学校生活をよりよくするために各委員会から新たな取り組みの発信がある。 ○上級生らの呼びかけは増えたが、上級生自身が必ずしもルールを守れていない。	○完食デー・無言清掃など委員会からの発信により、実りある学校生活となった。 ○児童生徒会を中心に、自ら問題点を見出し、解決方法を議論する活動が増えた。	【P】 B 【S】 C	○自分たちの力で学校を変革させていくという意識を持たせる。 ○学校生活での課題や改善点を、自分たちで見出し、解決に取り組む委員会活動の推進。	○下級生が上級生に憧れ、上級生が下級生を思いやるといった日常を通じて、楽しい学校生活が出来上がっている。 ○更なる良好な生活習慣の確立に向けて、生活指導の強化が必要で、優しさ・思いやりの中にも、厳しさも必要である。
4 子どもたちが主体的に運営する学校行事の実現 主体的な活動	○自分たちで学校を運営しているという意識や思いが強い。 ○下級生に上級生を支えるという意識が弱い。	○子どもたちの発案を大切にその実現に努める。 ○下級生と一緒に協働できるような活動の場を増やすように努める。	○子どもたちが提案を実践し、実現させることが増えてきた。 ○下級生の意識の向上については不十分であった。	○運動会などのイベント行事では自主的・積極的な活動が見られた。 ○委員会活動での新しい提案や呼びかけが増えた。	【P】 A 【S】 B	○主体的に活動するために計画的に準備・実行していく力をつける。 ○子どもたちの意識や実践を支えるための教員の役割。	○いつでも「主役は子どもたちである」というスタンスは定着し、委員会の活動などを通して、意欲の向上がはかられている。 ○特定の子どものばかりが目立つ傾向があるので、個々の状況（現状）に応じて、均等に機会が与えられるような配慮が求められる。

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満）

◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生） 【S】とは：セカンダリー課程（小学校5年生～中学校2年生）